

2024年8月11日 礼拝説教要旨

ヨハネによる福音書講解説教5「平和の使者」

出エジプト12：21～23、ヨハネ1：29～34

冒頭の言葉「その翌日」に注目してください。聖書をご覧くださいますと、35節にも「その翌日」、43節にも「その翌日」とあります。そして2章1節に「三日目に」とあります。この講解説教が始まりました時に、ヨハネ福音書の冒頭「初めに言があった」（ヨハネ1：1）が、創世記の「初めに神は天地を創造された」（創世記1：1）に対応しているという話をしました。ヨハネ福音書もその天地創造の物語をなぞらせるようにしてこれらの物語を描いていくのです。第一の日、第二の日と神さまが天地万物をお造りになられたように、翌日、その翌日と新しい創造の日々がここにあります。そのようにイエスさまの出来事を天地創造の物語と重ね合わせながら描くのは、そこに新しい創造の始まりを見ているからです。

どうして新しく創造されなければならないのか。それは罪が入り込んだからです。罪によって人間は神さまに背き、神さまの御心から遠く離れてしまいました。その結果、この世界は壊れていきました。祝福された世界ではなくなりました。それはこの世界の現状を見れば明らかでしょう。戦争も環境破壊もすべて人間が引き起こしていくものです。誰もこのままの世界で良いとは思いません。どうしたらこの世界が良くなるのか。人間がよりよく生きることが出来るのか。それはこの罪を何とかしなければならぬのです。では具体的にその再創造はどのようにもたらされるのでしょうか。それがこのヨハネの言葉に表されています。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」（1：29）。イエスさまがこの罪を取り除いてくださる。そのための小羊としてイエスさまは来られました。

今日は、旧約聖書の出エジプト記にあります主の過越の箇所を読みました。主の過越とは、イスラエルの民が、かつて奴隷であったエジプトを脱出する大きなきっかけになった出来事です。神さまがエジプトに10の災いを下される。その最後の決定的な災いが初子の死の災いです。しかしその災いから神の民を免れさせる手段を神さまは備えてくださいました。それが羊を屠り、その血を家の門と鴨居に塗る。そしてその羊を家族で食べるというものです。すると災いとその家を過ぎ越していきました。その小羊の犠牲によって、イスラエルは、神さまの裁きを受けずに済んだのです。そしてエジプトを脱出することができました。ヨハネが「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」と言う時、その過越の犠牲の小羊に、十字架で自ら犠牲となられたイエスさまのお姿を見えています。

このイエスさまの犠牲によってもたらされる救いに与るために、わたしたちは洗礼を受けます。今日の御言葉29節以下にはそのことが示されているように思えてなりません。「水で洗礼を授ける」と繰り返されていることに注目しましょう（31、33節）。ここには、洗礼者ヨハネがヨルダン川でイエスさまに水で洗礼を授けた出来事が暗示されていますが、これは同時にわたしたちの洗礼が指し示されていると理解することが出来るでしょう。わたしたちが洗礼を受ける時も水が使われます。注目していただきたいのは「水」と「聖霊」です。この解釈は重要です。「水」は『ハイデルベルク信仰問答』でも触れましたように、洗うこと、まさに罪を取り除く、除去するものです。罪の洗いです。でもただ洗うだけではない。同時に「聖霊」これは創造です。天地創造の時に神の霊が水の面を動いていたとあります。また人間は「命の息」を吹き入れられて生きるものとされました。

この後、第3章にニコデモの話がありますが、イエスさまが「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」(3:3)と言われ、さらに「水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない」(3:5)と言われます。この新たに生まれること、水と霊とによって生まれること、これも洗礼を指していますが、それによってわたしたちはイエスさまの救いにあずかり、新しく創造されるのです。ちなみに説教の冒頭で、この福音書が天地創造の御業と重ね合わされていると申しましたが、この29節以下は天地創造の二日目、第二の日に当たると申しました。天地創造の二日目は何が造られたのか。「神は言われた。水の中に大空あれ。水と水を分けよ」(創世記1:6)ここには水が出てきます。福音書を書いた教会はこの水と洗礼の水を結びつけようとしているのかもしれませんが、これはとても興味深いことです。

洗礼は、ただ教会に入る、入会の儀式ではありません。わたしたちが水と霊によって新しく造り変えられるときです。その時に、わたしたちはイエスさまと出会う。そこにイエスさまを見るのです。「あなたがたの中には、あなたがたの知らない方がおられる」(1:26)その方がここにおられることをはっきりと見る。今日の箇所でも、ヨハネは「わたしはこの方を知らなかった」と二回繰り返しています(31、33節)それまでは知らなかった、見えなかった。でも洗礼を受けて、罪を取り除かれた時に、この方がわたしたちの中におられることが見えるようになる。だからヨハネは言います。「わたしはそれを見た。だから、この方こそ神の子であると証したのである」(34節)そこに新しい創造があります。

さて、このわたしたちを新しく創造する、造り変える聖霊ですが、その聖霊が鳩のように天から降ってきたと記されています(32節)。鳩と言いますと、ノアの箱船の話の思い起こします。洪水の後、水が引いたのかを調べるためにノアは鳩を放しました。やがて鳩はオリーブの葉をくわえて戻ってくる。そしてノアが箱船から出て祭壇で犠牲を献げると、神さまが「大地を呪うことは二度とすまい」(創世記8:21)とおっしゃった。ここに神さまとの和解があります。イエスさまはその平和の使者としてこの世に遣わされました。洗礼を受けて、イエスさまに結ばれることで、わたしたちもまた新しく造り変えられます。そして平和の使者として歩み出すのです。

天の父よ。尊い神さまの独り子が、犠牲の小羊としてわたしたちのために十字架で死んでくださいました。それによって神さまとの和解を果たしてください、わたしたちを神の子としてくださいました。どうぞ一人でも多くの人々が、イエスさまによって新しく造り変えられ、平和の使者として生きることができるよう。主の御名によって祈ります。アーメン。